みんなの広場

街の写真館

▶姉妹都市締結40周年を記念して、米国ティケイター市から来訪されていた皆さんも参加した「ところざわまつり・民踊流し」。（撮影／市民カメラマン・津田資雄）10月8日(日)

▲秋晴れの下、大勢の人でぎわった「ところざわまつり」。明かりをともした山車の曳っかわせは、昼とは違った美しさがあります。（撮影／市民カメラマン・松﨑　満）10月8日(日)

◀紅葉が始まる初秋の武蔵野路をさわやかに歩いた「ダイアプランウォーキング大会」。（撮影／市民カメラマン・中村　仁）10月15日(日)／入間市仏子小学校から飯能市阿須運動公園までの約9㎞

一口メモ 防犯

～子どもを守るための親と子の「約束」～

各地域では、通学路の途中などで、子どもたちが犯罪にあわないように、パトロールや登下校時の見守りなど、「地域の目」で子どもたちを守る取り組みが行われています。

被害にあわないためには、「知らない人には、ついていかない」「危ないところには近づかない」といったように、お子さん自身が注意をしていただくことも大切です。

ぜひ、ご家庭でお子さんやお孫さんと一緒に、話をしてください。

★★被害にあわないために★★

①知らない人には、絶対についていかない
②怖いときは、大声で「助けて！」とさけぼう
③1人で遊ぶのはやめよう
④遊びにいくときは、「だれと、どこで、何時まで」遊ぶかを家の人に言ってから出かけよう

問い合わせ　防犯対策室（☎2998-9090・FAX2996-0015）

はつらつ野老っ子

平和の祈りをウォークに込めて

ウィリアム　リグラーさん（寿町在住）

今回は、航空記念公園でWalk4Peace（ウォーク・フォー・ピース）という『平和のために歩く』取り組みをしているウィリアム・リグラーさんに登場していただきました。

米国ケンタッキー州出身のリグラーさんは、今年で在日30年を迎えました。日本人の妻を持ち、英会話教室を開き、市内の幼稚園でも教えます。『外国人が見た日本』など日本語で講演もしています。

リグラーさんは、「日本人は独特のお付き合いを大切にしていますが、少し警戒心が強い」と感じることもあります。「それでも周りの人は、私の日本語を温かく感じ、メッセージの本質を理解してくれる」と人との対話を楽しみ、多くの出会いに感謝を忘れません。

航空記念公園にて

これまでに50を超える国々を訪問した経験から「平和を願う気持ちは、どの国の人も共通している」と感じていました。そんな中、今年、米国のあるセミナーに参加し、ビジネスの成功だけが自分の目標ではないことに気づき、『平和のために歩く』ことを思いつきました。セミナーの参加者の賛同も得て、帰国後、自宅に近い航空記念公園や都内の公園で歩き始めました。「プラカードを持って何か訴えて歩くのではなく、Walk4PeaceのTシャツを着て楽しく歩こう」このTシャツは、リグラーさんの思いに共感してくれたセミナーの参加者が、デザインしてくれました。

「歩くときだけは、過去の失敗や未来の不安を忘れて、この瞬間を楽しみ、発見をしましょう」とスタート前に呼びかけます。「あなたのメッセージは何ですか？今日お会いしたのもご縁ですから」とリグラーさんは、共に歩く仲間に温かく声を掛けます。

Tシャツにプリントされた『Until the MADNESS Stops!!』（狂気がなくなるまで）を願い、Walk4Peaceのアイデアで平和を伝えます。リグラーさんは、Walk4Peaceの和を広げ、平和を愛する心を育むために、これからも歩いていきます。

【一緒にウォークしましょう！－Walk4Peace－】
◆毎週日曜日・午前10時集合／航空公園駅東口YS11型旅客機前広場

ところざわの文化財 歴史再発見 ❼

明治天皇行在所跡

明治16年（1883）4月、明治天皇は近衛兵の演習天覧のため飯能に行幸しました。当時、天皇は軍事演習の天覧や各地の視察を目的として巡幸し、一般の民家や学校などの施設を行在所（天皇の仮の住まい）としました。この飯能行幸の際、天皇は途中所沢で宿泊しましたが、そのとき行在所として定められたのが、町の有力者であった齊藤与惣次家です。

町では一大盛事とあって、当日は横浜の商人から買い入れた新調の国旗を各戸に頒布して掲揚し、奉迎の意を表したと伝えられています。

齊藤家の私日記によると、同家ではこの行幸に備え表門や中門を新しくし、障子・襖・畳は新調、庭の植木も手入れしました。また軸物や古器などを俳人から借用するなど、細かな点にも気を配ったようです。

そして当日は、屋敷の周囲を白黒交互に染め抜いた麻布の幕で張りめぐらし、表門から中門に至る両側には紫の縮緬を張りました。家具は一切取り片づけられ、床には絨毯が敷かれ宮内省が用意した調度類が備え付けられました。また風呂も同家のものを使用せず、持ち運んできたものを裏庭に設備したとのことです。

行在所での明治天皇がどのように過ごされたのかは記録に残されていませんが、下賜品として三つ組木盃・紅白羽二重・御下賜金が、徳大寺宮内卿より下付されました。

明治天皇が宿泊された部屋

現在再開発が進む中心市街地ですが、齊藤家の建物は昭和20年代に一部移築があったものの、宿泊された部屋はそのまま残り、奥庭から見た景観は当時の面影を伝えています。

なお、中央公民館では、ボランティアガイドの皆さんによる案内を行っています。

レッツボランティア

【八百屋ごんべえ】
～だれもがいきいきと働き、交流し、活動できる八百屋さん～

新所沢駅西口から歩いて3分程のところにある八百屋ごんべえは、『地元所沢産有機農法の新鮮野菜をお届けすること』そして、『障碍をもつ人の働き場になること』をめざしています。障害のある6人の実習生は、みんな「この仕事が好き」と言います。店頭販売や宅配などの仕事を通じて、お金の計算ができるようになったり、仕事に取り組む姿勢や接客にも変化が見られたり、ごんべえでの仕事で自分に自信がついたという人がほとんどです。一方、お店を支える約12人の登録スタッフのほとんどは、主婦の皆さんです。

八百屋ごんべえは、障害の有無にかかわらずみんなの大切な居場所にもなっています。所沢産の『旬の採れたて新鮮野菜』へのこだわりから、仕入れに苦戦しながらも、地元農家とのネットワーク作りを目標にしています。

みんなで少しずつ出資し、力を出し合いながら今年で3年目を迎えた八百屋ごんべえの次なる目標は、地場野菜を使った『コミュニティカフェ・レストラン』。子どもからお年寄りまで、お互いに元気をもらいあえる場づくりへ夢がさらに広がりそうです。ぜひ一度、ご来店ください。ボランティア・市民活動の新しい形がそこにあります。

八百屋ごんべえの店頭

上記のグループについて、またその他ボランティア活動に関心のある方は、社会福祉協議会までお問い合わせください。

問い合わせ　所沢市社会福祉協議会（☎2925-0041・FAX2925-0040）

誰でもエッセイ

テーマ　誕生

子犬

上安松・三村　絹代

25年くらい前、自宅近くの食料品店で働いていたころ、中学1年生ほどの女の子2人が箱をもらいに来ました。きれいなタオルにくるまれた目も開かない黒い子犬を抱いていました。お母さんに、2匹は育てられないからもとの場所に置いてくるよう言われたとか。

私もそんな子犬を初めて見たので、抱かれた腕の中を静かにのぞいてみました。息子に声を掛けるとすぐに飛んで来て、じぃーっとめずらしそうに見ていました。

8年くらい飼っていた大が、病気で亡くなったときだったので、育ててみようかと、子犬を引き取り、すぐミルクと哺乳ビンを買ってきました。ミルクを口にもっていくと、おなかがすいていたのかよく飲んでくれました。

始めはティッシュボックスの中から、出たり入ったりネズミみたい。そのうちヨチヨチ歩き、目も空のように澄んでくるとかわいさも手伝って、息子はいちもくさんに帰宅してきては、あきずに眺めていました。

お勝手の隅にバナナの箱を置いて、おしっこやうんちも一生懸命に教えたのにしつけられず、結局は玄関のそばの犬小屋で飼うこととなりました。

誕生したばかりの子犬が、元気に成長したことを思い出します。

ゆらゆらチョロチョロ

小手指町・大門　博子

水槽の1つ隅に黒いかたまりが、ゆらゆらチョロチョロ。メダカの卵が誕生したばかりです。

親メダカは、水槽いっぱいにスイスイ泳いでいる。誕生したばかりの卵は、ひとつの黒いかたまりになって水槽の隅の1か所に集まっている。親メダカは、決まってそこに卵を産んでいる。

親と一緒にしていると、卵が食べられてしまうので、その黒いかたまりは、別のところに隔離して育てることにした。

星の誕生

和ヶ原・山ノ井　義治

今年の夏、信州高原に孫たちと出かけた。高原の日が暮れると、夜空は美しい星々の輝きにうめつくされる。銀の砂をまき散らしたようなミルクの道と呼ばれる天の川もはっきりと見えた。文字通りの降るような星空だった。

太陽の230倍の大きさというさそり座の赤い星「アンタレス」。夏の夜空の第三角形の中の七夕伝説の織姫星・牽牛星などの星空ウォッチングを楽しんだ。

星々は、いつまでも輝きを失わないように見えるが、星の世界にも人の世界と同じように生から死の一生があり、絶え間なく新しい星が誕生し、年老いた星は死んでいく定めがある。

はるかな宇宙に思いをめぐらせ、その神秘を感じることほど楽しいことはなく、心が洗われるような気がした。

おたんじょう会

けやき台　たき山　しょうたろう

このあいだ、お母さんとお父さんとお姉ちゃんが、ぼくのおたんじょう会をしてくれました。みんながおめでとうって言ってくれて、プレゼントももらってうれしかったです。

お母さんが、ぼくをうんだとき、ぼくがお母さんのおなかの中でさか立ちしていたので、とてもたいへんだったことをみんなに話しました。ぼくとお姉ちゃんは、お母さんに、うんでくれてありがとうって言いました。

次回のテーマは「応援する心」です

▶「誰でもエッセイ」ではテーマにそった投稿を募集▶はがきに300字以内で▶文章は添削あり▶掲載者には記念品を進呈▶次回のテーマは「応援する心」▶締め切りは11月8日(水)必着▶住所・氏名・年齢・電話番号を明記▶送り先：〒359-8501・並木1-1-1 所沢市役所秘書広報課「みんなの広場」係◎Eメール（アドレスkouhougenkou@city.tokorozawa.saitama.jp）も可。